

平成 30 年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2018 年 9 月 2 日(日) 13:00~16:00
 場 所: 神戸国際会館(セミナーハウス) 9F 大会場
 テーマ: ゲノム医療と倫理・社会的問題
 ~遺伝カウンセリングを通じた関わりを中心に~
 講 師: 田村 智英子先生
 FMC 東京クリニック(認定遺伝カウンセラー(米国/日本))
 受講者: 60 名
 アンケート回収:60 名(回収率 100%)
 主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門
 医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子



<概要>

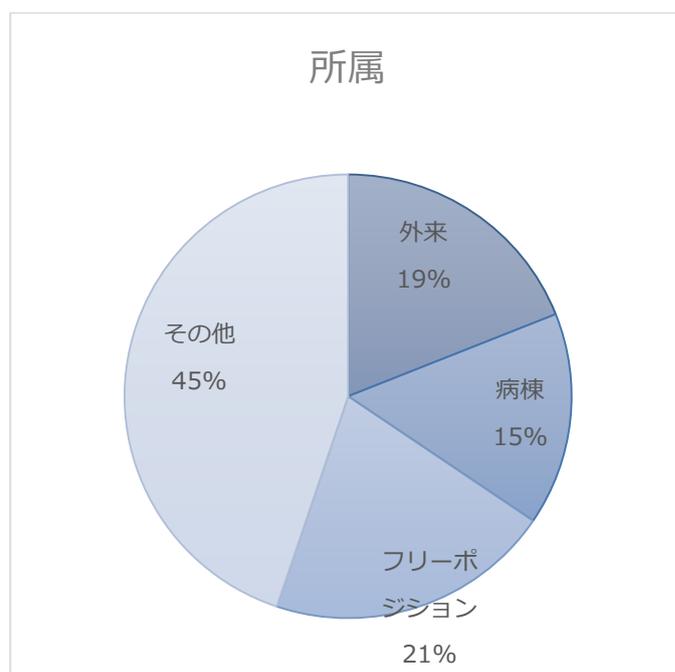
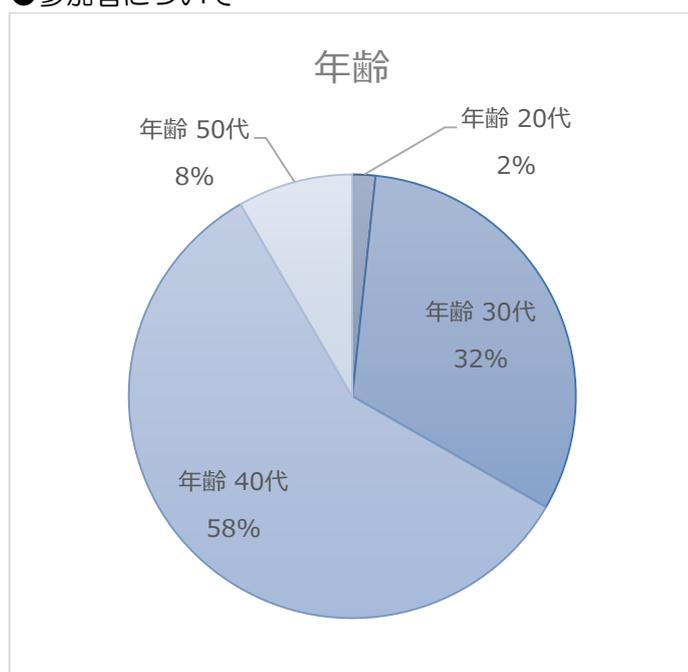
FMC 東京クリニック(認定遺伝カウンセラー(米国/日本)) 田村 智英子先生から、「ゲノム医療と倫理・社会的問題 ~遺伝カウンセリングを通じた関わりを中心に~」としてゲノム医療の最新状況をご説明いただきながら、今、まさにゲノム医療の現場で抱えている問題を参加者とともに考えていくことができました。

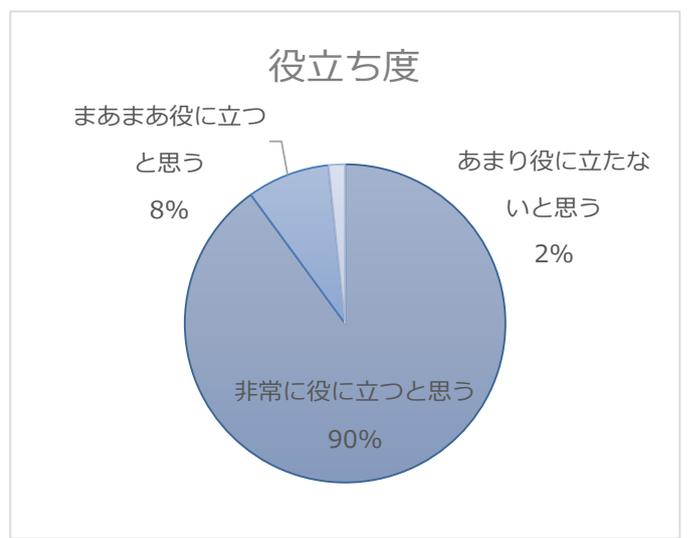
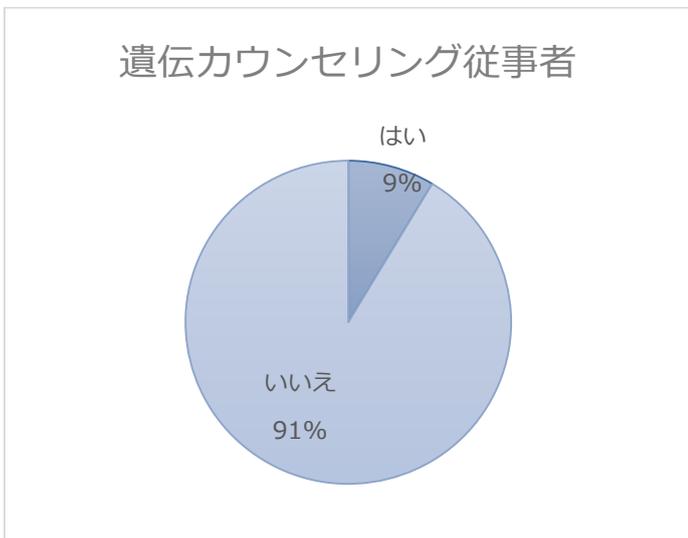
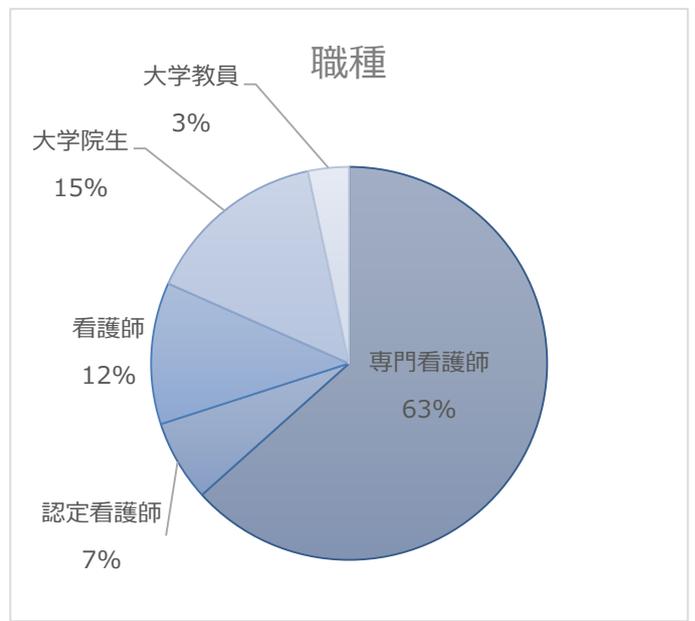
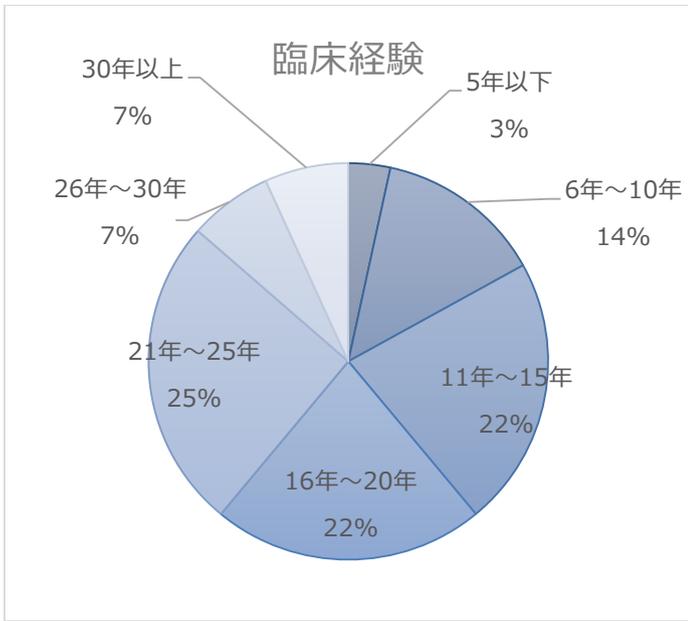
内容もとても分かりやすく、遺伝カウンセラーとして長く活躍されている経験から、看護師が直面している問題もよく把握されていて、参加者の方が何度も頷く場面も見られました。患者や家族への情報の正しい伝え方や、よりポジティブに接していくことへの重要性など、現場での実践としてすぐにいかせるヒントを多く得られるセミナーでした。



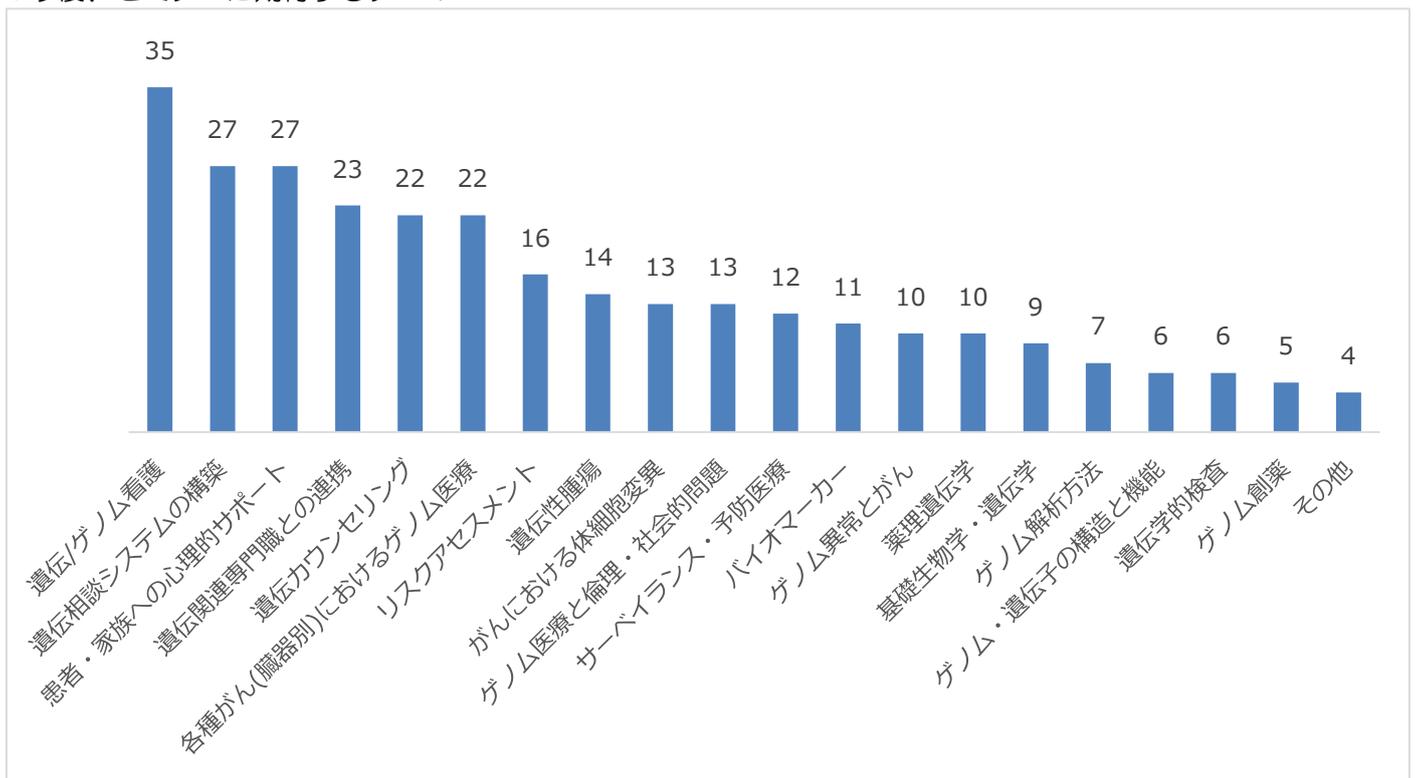
<アンケート結果>

●参加者について





●今後、セミナーに期待するテーマ



▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

- ゲノム医療について基礎的な所から最先端の情報までご講義くださり、理解が深まりました。
- 患者さんとお話するとき自分がずいぶんネガティブメッセージで話をしていたか気が付いた
- 具体的なコミュニケーションが聞くことができてよかったです。パネル検査やコンパニオン診断など知識を整理することができました。
- がん予防に遺伝的検査を使っていく。適切な情報を患者さんに伝えていく。
- 日本のがんゲノム医療における言葉の定義に関する疑問点が整理できました。また、自分の中にあるバリアにも気づきました。そのバリアの意味が本当に意義のあるものかももう少しきっちり考えていかないとはいけないなと思いました。
- ゲノム遺伝性腫瘍の勉強をはじめたところで、家族歴の確認をどうするか考えていましたが、あまり重要じゃないという話は衝撃でした。
- 遺伝性腫瘍を調べることに、それを患者さんに知らせることがすごく大変なことのようになっていたが、もう少し気楽に考えてもよいのかなと思った
- 患者が前を向いて歩けるような情報提供をしていきたい
- 積極的にかかわる勇氣は出てきました。
- ゲノム医療など医療の進歩の早さ。様々な変化についていくために積極的に情報収集していく必要があると感じた
- Ns は聞くのが好きという言葉にはとなりました。一般的な情報を簡単に伝える、ポジティブに伝えることは意識しておきたいと思いました。
- 最新の情報や現在の日本のがんゲノム医療の状況を知ることができた。
- とても臨床に沿った話で分かりやすく実践に活用できる。自分のやるべきことがイメージできた。ポジティブな印象をとっても受けた。
- 大切なことは Pt に正しい情報を伝えること…。医療がどのように進歩してもブレてはいけないことだと思いました。そこに自分がどのように関わるのか。組織分析を含めて自分の課題です。
- がんゲノム医療や遺伝子検査をすること、伝えることにとても高いハードルや難しさを感じていたが、5年後、10年後の医療の変化を見据えたとらえ方をしていくことも必要だということを感じた。
- すごく難しく自分がとらえていたことに気づきました。患者さんの Benefit を常に意識して対応できるように、まずは自分の知識を増やしていきます。
- ゲノム医療の進歩・変化ががん医療や患者のケアに変化をもたらしていることを学んだ。常に情報を入手しつつ看護として何ができるか、どのような役割を果たすべきかを考えていきたい
- VU9 の解釈は施設によって違うこと
- 病院間で取り決めていくことが具体的になったが、同時に各病院で任せられている部分もあり、責任を感じます。
- 遺伝子検査を受けること、遺伝変異があったときの患者への対応をできるだけネガティブではなくポジティブに伝えることということが印象に残っていて、患者の知る権利適切な検査・治療を受けることができる。選択肢が増やせることを支えられるよう知識情報を遅れずに取り入れていきたいです。
- グループディスカッションでは、まさにベッドサイドで必要としていた話題であったので明日からの看護で活用できると感じましたし、他のスタッフに伝えたいと思います。
- アメリカのゲノム医療に関する考え方がわかり学びになりました。
- もっと前向きに遺伝外来を提供してもいいのだということが新鮮でした。
- 実際のカウンセリングで使えるような対応できそうな対策が具体的に提示されていたのでとてもよかったです。
- 遺伝について患者と話すことにハードルが低くなりました。
- ポジティブに患者と話すことができそうです。

- 日本のゲノム医療の未整備な部分(バリエーションの解釈や遺伝検査のタイミングなど)があることがわかった
- 日本と米国での遺伝医療の違い、最新情報を知ることができて勉強になりました。
- 知識・言葉の整理につながりました。
- 遺伝について難しいというイメージが少し和らぎました。
- 家族歴がなくても遺伝性を考慮すべき症例が見落とされがちという視点を知ることができました。
- とてもネガティブなイメージを自分が持っていたことに気づきました。もっとポジティブに捉え、患者さんに大切な医療、必要な医療が届けられるよう毎日少しずつですが頑張りたいと思います。どうもありがとうございました。
- カウンセリングを大きな概念で考えるというのは大切だと思いました。
- ネガティブな印象、伝えることの懸念をつよく思っていたが、将来的なビジョンから考えてとても重要なことだと再認識でき、考えを転換できた。患者の1つの選択肢となっていく伝え方やサポートが必要と思う。
- 医療者が正しい知識を持ち、ポジティブな側面を含めて患者さんに伝えられることが重要だと思いました。
- 遺伝子診断やゲノム医療の基本～最新の情報を学ぶことができました。ネガティブ、難しいイメージでしたが、イメージが変わりました。
- 遺伝について関心を持っている人(患者)に対して短く適切なメッセージを伝えることの大切さを感じました。

▼がんゲノム医療を推進する上で、最も強く感じている看護の課題についてお書きください。

- ゲノム医療の倫理的なことが大まかに分かったが、では、看護がどうあるべきか(遺伝カウンセリングとの違いなど)のゲノム看護を構築しないといけないと思った。
- 疾患に対してだけでなくその人をとりまく全てに通じている。いつかがんという疾患は治る疾患になりますが、がんの発症がある限り、がん看護は続く中でのその人らしさの看護が大切ではないかと考えます。
- 自分(医療者)の知識不足により、患者さんやその家族にうまく伝えられなかったり、質問されても答えられないこと。
- 遺伝医療やゲノム医療に関しての知識の不足、世間のネガティブイメージ
- 病状、遺伝的変異の理解の支援
- 意思決定支援(治療・検査など)
- 教育(知識の充実)
- 適切な情報提供と意思決定支援
- ゲノム医療に関する遺伝的知識が不足している。
- 看護師全体の知識不足
- 自分を含めて医療者で理解している人が少ないかも知れないこと
- がんゲノム医療における多職種との連携を効果的にする戦略
- Drの知識、Nsの知識。
- 経験不足、苦手意識が重なって正しい情報提供ができない。Faの偏見もある。
- Drが中心となっている中でチーム医療としてのシステムがまだまだ未完成なので、院内はもちろん地域のHp、Drとどう連携するのか、調整役はNsになるのではないか。
- 知識
- 医療者自身の知識不足
- 今回先生の話聞いてあまり慎重になりすぎずに Positive に情報を伝えていけるようになりたいと思います。

- がんゲノム医療について理解することを広くすすめる
- 現在、基礎教育の現場にいるため、今、関わっている学部生さんたちが臨床に出るころにはより具体的に看護師がゲノム医療に携わっていく必要が出てくると思いました。どのように学生やNsを教育していくかが課題だなと感じます。個人的にですが。
- がんゲノム医療のことを看護師が十分に理解していない。
- 看護の役割を考えていく必要がある
- どこまで看護師が介入するか未知な分野で戸惑いがある。
- 医療関係者の知識不足や苦手意識の解消
- NSのがんゲノムに対する知識不足
- 自分の知識不足を感じています。まず、いろいろな知識を得ていきたいです。
- 医療者間でのがんゲノム医療の意義や認識について統一されていないと思うので、その調整が必要なのではないかと感じた。
- CNSに求められる「先を見越した」ケア実践のためにはゲノム医療にたけていることは必要
- 看護師のがんゲノム医療に対する抵抗感
- 当院の場合は、がんゲノムの重要性を感じている言葉はあるが、実際に診療に取り入れることとなると、既存の方法を崩すことへの抵抗を示す方がいる。専門家が少なくリーダーとなる人がいないことや国の指針、整備が迅速に現場に届けばと思う。
- 医療者間の温度差…主治医によって意識の差が激しいということでしょうか。
- 遺伝カウンセリング(オラパソブ導入により)の体制がすすみません。Dr、Ns、他職種の理解も違うように思います。Drも間違ったことをPtさんに伝える人もいるのでNsが理解を深め同じレベルで話し合えることが必要と思いました。
- がんゲノム、遺伝的なことの基礎的知識
- 遺伝についてあまりにも神経質になりすぎずに知ることのできることもあるといったポジティブな面もあるんだという意識をもって患者と関わっていく必要があると感じました。
- 知識が足りていないし、スタッフナースに教育していくことが課題だと思いました(教育できるように知識を得ていくこと)
- パネル検査を行う際にDrの目的とPtの目的の理解が異なることが多い。
- 看護師への教育、教育をできる人材の育成、学部か修士から学ぶ必要がある。
- 解釈の統一化の必要性を強く感じた。
- 患者さんの方が情報を持っていることもあるので、身近な相談を受けるNsが知識を持つことが必要だと思っています。
- 情報についていけない。院内での取り組み(方針)が決まっていない。どのタイミングでNsが関わっていけば良いのか連携が難しい。
- タイミングを逃さずに検査や医療に結びつけていけること
- ゲノム解析に伴ったゲノム医療に過大な期待をしている患者に対してのサポート(正しい知識の提供だけでなく、どのようにフォローし、どこにつなぐのかなどシステムの的なことを含めて)

▼その他、何かご意見・ご感想があればお聞かせ下さい。

- とても勉強になりました。次回のリンチ症候群も参加し、学ばせて頂けたら幸いです。
- 大変貴重な時間をありがとうございました。
- ありがとうございました。
- わかりやすかったです。
- 遺伝やゲノム医療についての研修が少ないので大変ありがたかったです。ありがとうございました。

- ありがとうございました。学びは大きかったです。
- まだまだいろんな事しながらの遺伝カウンセリングなので情報を得るだけで精いっぱいです。医師は自分の分野のことだけでいいけど CNS は…。
- 大変良かったです。同僚にぜひすすめたいです。
- 貴重な講義ありがとうございました。とても分かりやすかったです。
- 今まで、カウンセリング、どう説明するか、家族はどうするか、心理的サポートの必要性を言われ続け負担が大きかったが、今日の講義を聞いて気持ちが少し楽になりました。
- とても分かりやすく素敵なお研修でした。ありがとうございました。
- 貴重な講義でした。
- ぜひ、今後も参加させていただきたいと思います。